

本書は、前著(『一步進んだ日本語文法の教え方1』。以下『1』と表します)に引き続き、日本語教育における導入の仕方について、筆者がこれまで考えてきたこと、実践してきたことにもとづいてまとめたものです。

『1』が初級編であるとすれば、本書は中級編に当たります。本書では、ボイス表現、「は」と「が」、「のだ」など、ある程度、知識を積み上げなければ産出まで持っていくことが難しい項目を取り上げました。

本書は3部からなっています。

第1部は「文法項目を導入するときに考えるべきこと」で、正確に産出することが難しい10のトピックを選び、導入の際のポイントを述べています。

各セクションは、【こんな例があります】【不自然さの理由を考える】【どう考えるか】【導入のポイントを考える】【より進んだ導入、研究のために】という5つの部分からなっています(『1』に比べ、本書では必ずしもはっきりと「誤用」とは言い切れない例も扱うため、「誤用」ではなく「不自然さ」ということばを使っています)。【こんな例があります】ではその項目でよく見られる不自然な例を挙げ、【不自然さの理由を考える】ではその不自然さの理由を考え、【どう考えるか】では日本語学的観点から考察します。以上を背景知識とした上で、【導入のポイントを考える】では具体的にどのように考えて導入すればよいかについて述べています。最後の【より進んだ導入、研究のために】では教育志向の方にとっては授業の改善につながり、研究志向の方にとっては研究のテーマの発見につながるような情報を載せています。

第2部は「用語編」で、文法について考える際に関連してくる日本語学の諸概念を体系的に説明しています。この部分をきっちり理解すれば、日本語文法の骨格が理解できるようになっています。

第3部は「発想編」で、文法教育に関する筆者の考え方を述べています。

『1』に比べ、本書の記述は理解にやや骨が折れるかもしれませんが、それは、取り扱っている内容の性質によるものとしてご理解ください。

本書が文法教育の発展に少しでも寄与できれば、望外の幸せです。

目次

まえがき iii

第1部 文法項目を導入するときに考えるべきこと

1	コップの水は多い?少ない?—————	2
	～とりたて助詞～	
2	実はとても簡単—————	10
	～使役受身～	
3	たすきがけは不要—————	13
	～直接受身～	
4	例文に注意しよう—————	24
	～使役～	
5	ドアは勝手に閉まるの?—————	34
	～自他～	
6	気づかれていない難しさ—————	45
	～タ形とテイタ形～	
7	「受難」の「んです」を救い出そう—————	54
	～のだ(1)～	
8	文末に接続詞がある!?—————	66
	～のだ(2), わけだ, からだ～	
9	本当に難しいの?—————	76
	～「は」と「が」(1)～	
10	本当は簡単!—————	87
	～「は」と「が」(2)～	

第2部 用語編

1	言語の単位と文の種類—————	100
---	-----------------	-----

2	格とその関連概念	111
3	文法カテゴリーと複文	117

第3部 発想編

1	文法教育の目的	136
2	文と文法(1) ～ことばを作る横系と縦系～	142
3	文と文法(2) ～文法を習得するとは?～	152
4	機能から考えよう	158
5	日本語教育文法と教授法 ～WhatとHowの望ましい関係に向けて～	164

あとがき 167 索引 169

1

コップの水は多い?少ない? ～とりたて助詞～

こんな例があります

- ❶ ? 今月は携帯電話の料金が3万円ゆ¹かかっちゃった。これからしばらく夕食はインスタントラーメンだな。(⇒3万円も)
- ❷ ? 昨日まで風邪で熱があって、水だけ飲めたので、とてもおなかがすきました。(⇒しか飲めなかった)

不自然さの理由を考える

❶❷とも文法的に間違っているとは必ずしも言えませんが、()内の言い方の方が文脈的にふさわしいと言えます。「も、だけ、しか」などを「**とりたて助詞**」と言いますが、とりたて助詞の使用には文脈的な要素が関わっていることがわかります。

どう考えるか

■ とりたて助詞の機能

図1を見て、楽観主義の人は❸と考え、悲観主義の人は❹と考えるという話があります。

- ❸ 水が半分も残っている。
- ❹ 水が半分しか残っていない。
- ❺ 水が半分ゆ残っている。



図1 水が半分残ったコップ

1 ゆはそこに形のある要素が存在しないことを表します。

さて、**5**が**図1**のイラストの内容を表していることからわかるように、とりたて助詞がついた**34**は、それがついていない**5**の内容を含んでいます(言語学の用語では「含意する」と言います)。言い換えると、次のようになります。

6 とりたて助詞がついた表現は、とりたて助詞がついていない表現に、話し手の主観的な捉え方が加わったものである。

今の例では、**3**は**5**の内容(コップに水が半分残っている)にそれが「多い」という話し手の捉え方を加えたものであり、**4**は**5**の内容にそれが「少ない」という話し手の捉え方を加えたものということです。

このことを踏まえて**12**を考えてみましょう。

まず**1**が不自然なのは、後続文で今月はお金がないということを書いており、それとのつながりということから考えると、「3万円」は話し手にとって「多い」(＝大金)と考えられるので、数量詞について量が多いことを表す「も」をつけた方がよいからです。

次に、**2**が不自然なのは、同じく限定を表す「だけ」と「しか～ない」の違いによるものです。「しか～ない」は限定をする(限定される)ことが「不本意」である場合に使われます。**2**の場合、風邪で気分が悪かったため、飲めるものが「水」に限定されたわけですが、これは話し手にとっては「不本意」であると考えられます(後続文でおなかがすいたと言っていることからこのことが確かめられます)。したがって、「しか～ない」を使う方が自然ということになります。

■ 数量表現+とりたて助詞

1は数量表現に関わる例ですが、ここで注意しなければならないのは、数量に関する捉え方は状況によって変わるということです。例えば、同じ「3万円」でも、東京在住の人が**7**を言った場合には自然で、逆に「も」をつけた方が不自然になります。

7○この前の北海道旅行は1人3万円しかかからなかった。

(?3万円もかかった)

2

実はとても簡単 ～使役受身～

こんな例があります

- ❶ ?私はコンパでその歌を歌われた。(☞歌わされた)
- ❷ ?私はお酒が飲めないのに、みんなが飲ませた。(☞飲まされた)

不自然さの理由を考える

❶❷はともに文法的に間違いとは言いきれないのですが、この文脈で適切とは言えない言い方となっています。それぞれ、❶'❷'のように言えば話者が表現したい意味になります。

- ❶' 私はコンパでその歌を歌わされた。
- ❷' 私はお酒が飲めないのに、みんなに飲まされた。

この下線部は**使役受身**の形です。使役受身は初級の文法項目ですが、産出が難しいと言われています。確かに、「使役を作ってから受身にする」といった説明を聞くと、学習者は何をどうしてよいのかわからず、その結果、この形を使うのを回避するか(「非用」)、不十分な理解のまま使って誤用になるかというケースが多くなっていると思われます。

どう考えるか

それでは、使役受身は産出がとても難しい文法項目なのでしょうか。実はそうではありません。❸と❹を比べてみましょう。

- ❸ 私はコンパでその歌を歌った。
- ❹ 私はコンパでその歌を歌わされた。 (=❶')

3

たすきがけは不要 ～直接受身～

こんな例があります

- ❶ ? 電車で誰かが私の足を踏んだ。(⚡電車で誰かに足を踏まれた)
- ❷ ? そのペンは私に使われました。(⚡私がそのペンを使いました)

不自然さの理由を考える

❶❷は受身(直接受身)に関する誤用例ですが、『1』で扱ったもののように、文法的に間違っているとは言い切れないところもあります。実際、❶に対応する文は英語や中国語では自然ですし、❷に対応する中国語の文も自然です。そういうこともあって、学習者が❶や❷を産出することは無理もないことなのです。

逆に言えば、❶や❷が日本語として不自然であるのは、日本語の側に何らかの制約があるためだと考えられます。

どう考えるか

■ 直接受身は話し手の「気持ち」を表す

❶とそれに対応する正用の受身文❶'を比べてみましょう。

- ❶ ? 電車の中でだれかが私の足を踏んだ。
- ❶' (私は)電車の中でだれかに足を踏まれた。

❶と❶'を比べると、❶'は「私」を主語とする文であり、「私」の立場から文を組み立て、「私」の気持ちを表していることがわかります。

■ 直接受身は受け手を主語とする自動詞(相当)文

『1』の§1で「二項述語」について述べました。二項述語というのは、出来事を表すのに要素が2つ必要な動詞のことです¹。

ここで、二項述語における出来事のパターンを図示すると、**図1**のようになります。

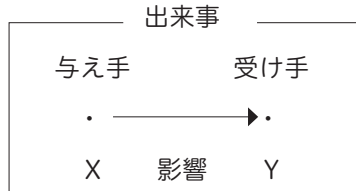


図1 二項述語で表される出来事(I)

さて、能動文と受動文(直接受動文)は**図1**を使うとどのように考えられるのでしょうか。

ここで、次の2つの文を考えてみましょう。

3 私がだれかを押した。

4 だれかが私を押した。

図1と**34**を対応させると、それぞれ次のようになります。

3 X=私, Y=だれか, 影響=押す

4 X=だれか, Y=私, 影響=押す

つまり、**3**では「私」は影響の与え手であるのに対し、**4**では影響の受け手です。一方、**34**はともに、影響の与え手を主語とする文です。

このように、**34**は影響の与え手を主語とする文ですが、ここで、影響の受け手を主語にするとどうなるのでしょうか。この点を**4**を例に考えてみましょう。

¹ 「好きだ／嫌いだ」はナ形容詞ですが、例外的に二項述語です。ただし、動詞ではないので、「(「～が～を」ではなく)「～が～が」という格パターン(格枠組み)を取ります。なお、最初の「～が」(主語)は主題化されて「～は」の形を取るのが普通です [⇒ §9]。